

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



子どもから大人へ

子ども教育学部 学部長 杉山直子

子ども教育学部が始まり、4か月がたちました。第1期生の学生たちは、生き生きした目で元気に通っています。4月の「自転車で通ってるの?」「はい。平地なので、少々遠くからでも大丈夫なんです。」という会話も、今は「私たちで、サークルをつくりたいのですが。」「教員採用試験の準備は、どうしたらよいですか?」と大学生活や自分の将来にかかわる内容になってきました。いつも素直なまなざしの1年生たちは、これからの大学生活を、目標を持って送ろうと意欲的です。

さて、子どもとは「18歳未満のすべての者」と、『子どもの権利条約』には記されています。日本では、成人式を迎える20歳から大人の仲間入り。すると、18歳から20歳までという時期は、子どもでもなく、成人（大人）でもなく、まとめた呼び方のない時期です。そうした時期ですが、一人一人の人生において非常に重要な時期だと、いろいろな方々とかかわる中で思うようになりました。手短かにいえば、その時期は、その後の人生における「価値の拠り所」を自分自身で創り出す時期ということです。まさに、子どもを卒業し大人になる前に、自分自身を振り返り、自分自身でこれからの自分を創る、そのための環境を自分で見極める、大人への準備時期といえます。

「価値の拠り所」は、人から教えられて持つものではなく、自分に自然に生じるものでもありません。その時期に、出会った人・もの・文化・・・読み込んだ本、気に入って何回も聞いた音楽、ともに行動し語り合う仲間たち、社会について教えようとする大人たち・・・それらに、身をゆだねたり、矛盾に向き合ったり、格闘したりして、自分なりの「価値の拠り所」が成り立っていきます。こうした経験を通して、何より自分を知り、さらなる自分を創っていくことができるのです。そうした大人こそ、子どもに向かい合うこと、育てることができます。

学生よりも随分と年長のこの私ですが、学生たちのよりよい成長に働きかけつつも、今という時期の意味を問い、「先に生まれた者＝先生」として生き方を示せるよう、格闘中です。